

社会的事業「お古つながるプロジェクト」

同じ保育園の保護者同士でお古を譲ったり、譲ってもらったりできる仕組み。
「無料でお古をいただける！」「子どもの着られなくなった服を有益に処分できる！」
「子ども服の廃棄を減らせる！」—— つまり、子育てと環境に優しい仕組みです。

■事業背景

子どもはどんどん体が大きくなります。50センチ弱で生まれ、男女とも、150～170センチまで背が伸びて中学校を卒業します。靴のサイズも10センチ弱から23～26センチまで大きくなり、0.5センチごとに売られている全サイズの靴を履きます。夏と冬では着る服・履く靴は異なりますし、さらに遊んだり食べたりでどんどん汚れるのでTシャツ、ズボン、下着、上着、パジャマ、靴下、靴などをたくさん用意しなくてはなりません(季節ごと・種類ごと・各サイズで、着るものは8～15枚ずつ、靴は2～3足ずつ必要)。購入料は安くなく、毎年そろえて、毎年同量を処分することになります。

昔から、着られなくなった子供服は「お古」として、必要な人にさしあげる行為があります。しかしお古のやり取りには悩みが多く(後述)、特に札幌は通勤族が多くて核家族化・少子化で地縁が薄いため、お古のやり取りが活発であるとは言えないでしょう。15歳までに、一人当たり段ボール15箱分以上の服等を廃棄しているためゴミの問題もあります。子育てに費用が掛かりすぎることが、少子化に拍車をかけ¹、就学援助利用者を増やし²、子育てを楽しめない苦痛感が児童虐待につながる例が多いことは明白です。

そこで、特に成長が早く、洋服の傷みが少ない就学前児童が通う保育園において、保育園、行政、NPOが協力して行なう子育て支援策として当事業を提案します。園児が90人以上いる札幌市内の保育園で、試行にご協力いただけたところが充分集まり次第、助成金等で試行実施します。

■事業概要

- 1) 0～6歳で保育園に在籍する子の保護者が、携帯・スマホ・パソコンから会員登録。
- 2) 保護者は、子どもが着られなくなった服の情報(サイズ・性別等。写真可)をアップ(任意)。
- 3) 保護者は、NPO サイト内にある、自身の子の保育園ページのみ閲覧可。欲しいものがあれば申請(任意)。1週間以内に、よりポイントの高い人が同じ情報に申請しなければもらえない。
- 4) マッチングが成立したら、提供者は物品を入れた紙袋に両者の名前を明記し、保育園の所定の位置に置いておく。申請者は取りに行く。

※マッチング成立時に各1ポイント、提供者は加算、申請者は減算される。

※会員登録・申請とも無料。

¹ 北海道の合計特殊出生率は1.25で、東京都に次ぎワースト2。札幌市は1.09。(2011年度)

² 札幌では対象児童の18%が就学援助制度を利用しており、6人に1人以上といえる。(2010年度)

お古つながるプロジェクト



譲りたい人
(5歳・山田太郎の
保護者)



譲ってほしい人
(1歳・鈴木一郎の
保護者)

前提・保育園が登録

①保護者が会員登録

⑥保育園に預けた旨、連絡

⑧受け取った旨、連絡

保育園に
預けましたよ。

ありがとう
ございました！

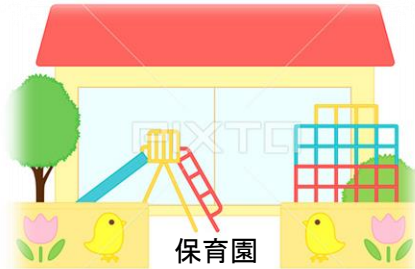
⑤物品を預ける

⑦物品を取りに行く

②物品の写真UP

③ID00001譲り受け申請

④提供先決定。
ポイント移動。



保育園

「本親は保育園で、
男の子60センチが
アップされました。」
アンケート

初申請の受信後、
1週間(予定)で
提供先決定。

譲渡の優先順
1. ポイントの高さ
2. 申請の早さ

お古つながるサイト(NPO内 α保育園ページ)



ID 00001
①男の子
②80センチ
③長袖シャツ、
ズボンなど、
写真に写って
いないものを含め
数十枚。
④5歳・
やまだたろうの
保護者



ID 00002
①-
②-
③子供用
グローブと
サッカーボール。
④5歳
やまだたろうの
保護者



NPO法人ボラナビ倶楽部

■事業のメリット

【保護者】

- A) 無償で何枚でもお古をもらえる。子育ての悩み「経済的負担」を減らせる。節約できる。
- B) 服が必要になった時、24時間いつでも物品を検索し、欲しいと意思表示できる。
- C) 不要になった服を譲る意思表示を24時間いつでも行うことが可能。有益に片づけられる。
- D) お古のやり取りに、謝金・謝礼品を介在させずに済む。
- E) 毎朝、毎夕、足を運ぶ自分の子の属する保育園が受け渡し場のため、運搬が容易。
- F) 誰もがもらう側にもあげる側にもなりえ、ポイントは対外的に見えないため優越感や劣等感が生じない。
- G) 有料なら挑戦しない服などを気軽に試し、子育てを快適にできる。
- H) 物品の前使用者が同じ保育園の子のため、愛着・安心感を抱ける。
- I) 同じ保育園の親(子育ての先輩・後輩)とつながり、友人が増え、子育ての孤立化を防げる。
- J) 現在、お古のやり取りに存在する悩み(「参考」として後述)の多くが発生しない。

【保育園】

- K) 子ども服の調達に経済的に苦勞している世帯を含む幅広い保護者をサポートできる。
- L) バザーの開催では次の課題がある。保護者が良かれと思って提供してきても受け入れ難いものが含まれていて園が処分費用を負担することがある、園で商品の引き取り・陳列・お金のやり取りが必要、特別なイベントのため園の労務・精神負担が発生、保護者にとって日常必要なものを十分な量得ることは期待できない。しかし今回提案する仕組みは、
 - ① 引き取り主が決まっている物だけが保育園に持ち込まれてロスがない、
 - ② 提供者名と引き取り者名が明らかなのでマナーが守られやすい、
 - ③ 恒常的な仕組みのため園の負担が少ない、
 - ④ 保護者はいつでもお古の処分や日常必要なものの調達が可能、と考えられる。

【全体】

- M) 政治に左右されがちな現金給付と異なり、現在みすみす廃棄されている資源を活用することで、子育て世帯を経済的にサポートできる。
- N) 子育て環境向上・子育て世帯の共助交流促進・環境問題であるゴミ削減などを促せる。
- O) 全国共通課題への取り組みであり、汎用性・波及性が高い。当インターネットシステムは全て自動化されているため、全国の保育園が利用しても同事務局が対応可能である。効果に対するランニングコストを抑えられる。

保護者が月に5千円でも節約できれば、「子育て世帯に年間6万円の現金給付」と同じ効果がある。各保護者の利己的行動が社会全体を豊かにできる仕組みである。

■その他

- 譲渡する人、される人の中で、謝金や謝礼品を介在させるのは禁止。
- 返品不可。
- ポイントは、複数人が譲り受けを申請したくなるお古の行き先を機械的に決定するもの。
- 閲覧できるのは、自分の子と同じ保育園の保護者が出品した物のみ(受け渡しが容易、マナー違反を防げる)。

■想定される保育園の懸念

	懸念	解消のための事務局案
1	お古紛失時の責任所在。	・「物を預ける人は、保育所が紛失等しても、保育所に対し管理責任を一切問わない」協定づくりや、試行時に保護者トラブルが発生した場合の窓口を、当事業顧問弁護士が引き受けます。協定に同意した保護者のみが利用する仕組みです。協議会(保育園・NPO)は、紛失、盗難、誤持ち出しや、保育園の過失による損傷、保護者間トラブルに責任を負いません。
2	お古の持込みや持ち出し時間に保育園が対応できない。	・保育園内のお古配置場所を明確にし、施錠や保育士等の監視は不要とするのはいかがでしょうか。保護者が子どもの送迎ついでに立ち寄って、自主的に持ち込みと持ち出しを行いません。 ・職員室などを保管場所にし、保育士が窓口になっても構いません。その場合は、持ち込み持ち出し曜日、時間を限定するのが良いと思います。
3	お古物品の盗難の恐れ。	・高価なもの、誰もが使用したいと思うものは想定しておらず、当保育園に通う保護者のみが入り出すため、園内に配置されている園児の所有物同様、盗難はほとんどないと思われます。
4	お古配置場所を確保できるか。	・保育園によっては、難しいのかもしれませんが。保育園児がお古に触れないようにすることは必要です。園内押入れの一部、廊下、部屋の一部等が考えられます。
5	その他	・保管最大日数、持ち込めるサイズ、品目を、各保育園ごとに自由に限定できるよう、各保育園が設定しやすいルール例を協議会で作成します。

■メッセージ

・保育園関係者のみなさまへ

当提案は、保育園に関係するみなさまを戸惑わせることでしょう。お古の持込み・持出し時のルール、トラブル時の責任の所在など、ご心配される点も多いかと思います。現場の方や専門家を交えて、これらについて考える必要があると認識しております。それでも、当事業は複数の社会的課題の解決につながり、期待できる効果・波及性が高いと感じられることから、ご提案せずにいられてませんでした。

・人と人がつながる「共助」の重要性

ネット社会の普及で匿名・孤立化が進む一方で、生活・心情のオープン化やリアルなつながりが加速しています。希少な存在である若い子育て世帯が活用しやすい形で、彼・彼女らの地域内「共助」を促し、それを地域が協力して支える仕組みを構築することは、子育て環境の向上につながります。

・「お古つながるプロジェクト」の名について

お古をくださる方に、
お古でお返しすることはできないけれど、
好意はつながっている
人はつながっている
そして地域が協力して子育てを応援してくれている
——と保護者の方にイメージしていただきたく、プロジェクト名にしました。

・当事業の試行意義とお願い

当事業は、モデル試行で保育園関係者等の声を反映させていけば、同じ社会的課題を有する全国や小中学校で汎用できる仕組みとなるでしょう。現在、廃棄されている資源を活用することで、多様な社会的課題の解決が期待できる地域主体の新事業として、ぜひ皆様にご協力いただきたくお願い申し上げます。

次ページに「参考」有。

NPO 法人ボラナビ倶楽部

代表理事 森田麻美子

メール volunavi@npohokkaido.jp

TEL・FAX:011-242-2042(火・木・土 10~13 時以外は留守電)

〒060-0061 札幌市中央区南 1 条西 7 丁目 12-5 大通パークサイドビル 3 階

■参考■ 現在、子ども服のお古のやり取りに存在する悩みの例～インターネットで収集

受け取る側

「お古を欲しいのに…」

- 子ども服はすぐに着られなくなるので、買うのは無駄。経済的に厳しい。
- 買っても、子どもが気に入らず一度も着てくれないことがある。お古でもらったものなら、着てくれなくても「まあいいか」と思えるし、また誰かに譲ればいい。
- 買ってすぐに汚されると辛いので、子どもに「服を汚さないで」と神経質に言っ
てしまいがち。お古なら汚されても寛容になれる。
- 子ども用品ならなんでも欲しいが、譲ってくれる人がいない。
- 元の持ち主が分からない売られている中古品は、サイズが小さいから出された
のではなく、商品が使いづらかったり不良品だから出されたのではないかと
疑ってしまう。
- 中古にお金をかけたくない。中古を「購入」するなら、商品をしっかり見極めな
いと不安なので面倒。
- 大量の子ども服が捨てられているのは、もったいないと感じる。
- 譲ってくれそうな相手に「譲ってくれない?」というのは、相手の心理的負担にな
りそうでいやだ。

「お古をいただく行為が嫌だ」

- 謝金やお礼品を用意しなくてはならない。「お礼はいらない」と言われても、何
もしないわけにいかない。そのため新品を買うほうが楽で安いと思う時もある。
- いただくお古に欲しいものがない、欲しいものばかりではないことがある。欲しい
ものだけ譲っていただきたい。不用品を譲られると、処分にお金がかかる。
- お古の譲渡は一方通行なので、もらってばかりだと相手（親せきや友人）との
関係性が変わりそうで困る。でも、くれる相手にあげられるお古はない。
- お古をもらえるタイミングはお古をくれる人の事情によるので、必要な物を必要
な時に必要な量を得ることは期待できない。着るのがずいぶん先の服をいた
だいて収納に困ったり、いただくタイミングが遅くて、すでに自分で購入してい
たりすることがある。

提供する側

- お古を上げられる相手がいらない。親せきや友人で、自分の子と同姓でより幼い子を持ち、「お古が欲しい」と感じそうな人。
- お古を上げられそうな相手がいっても、「お古いらない?」と声をかけるのは失礼になりそう。
- 相手にとって必要か不要か分からないものを差し上げるのは不安。
- 相手が「新品同様のブランド品」など厳選されたものだけが欲しいのか、とにかく枚数が欲しいのか、相手の本音が見えない。
- 差し上げる行為はそれなりに気を使うのに、何も見返りが無い。自分ばかりが損をしているように感じる。
- お古を差し上げる行為のために、わざわざ時間を作ったり、相手と歓談の場を設けたり、送料を発生させたりするのが馬鹿らしい。
- 引き取ってくれるだけでありがたいのに、お礼をされると、引き続きさしあげるのに躊躇する。お礼を期待していると思われたくない。
- 収納に困るので早く処分したいが、捨てるのはもったいない。
- 子どもに買ってやりたいものがあったても、お金があっても、「それほど長く(数回しか)使用しないかも」と思うと環境が悪くてもったいない気がして、購入をちゅうちょする。
- リサイクルショップに持って行くのは抵抗がある。値付けされる・受け取り拒否される・知らない人が使用するのが嫌だ。「自分の娘のお古を変態が買わないか?」。何度も足を運ぶのは面倒なのに、お古は随時発生する。名前記載済み品や非ブランド品は引き取ってもらえない。

以上